

会議結果報告書

1. 会議名 令和2年度印西市環境審議会・環境推進会議（合同勉強会）
2. 日時 令和2年8月27日（木） 10:00～12:00
3. 場所 印西市役所 附属棟23・24・25会議室
4. 出席者 環境審議会：岩井会長、片倉委員、富澤委員、山本委員、湯浅委員
環境推進会議：岩井会長、白川委員、小山委員、橋本委員、平林委員、福井委員、川村委員、朝倉委員、土肥委員、三輪委員
事務局：土屋環境経済部長、清水環境保全課長、山崎課長補佐、黒田係長、清田（環境保全課保全係）、土肥、高草（エヌエス環境（株））
5. 配布資料
 - ・令和2年度印西市環境審議会・環境推進会議（合同勉強会）会議次第
 - ・令和2年度印西市環境審議会・環境推進会議（合同勉強会）席次表
 - ・印西市環境審議会条例
 - ・印西市環境推進（市民・事業者）会議設置要綱
 - ・資料①「第3次印西市環境基本計画策定について」
 - ・資料②「自然を活かした豊かな地域づくり～グリーンインフラのすすめ～」
6. 内容
 - (1) 開会
 - (2) 部長挨拶
 - (3) 自己紹介
 - (4) 概要説明

印西市環境基本計画の概要や第3次印西市環境基本計画策定について、資料①に基づき事務局より説明（以下内容抜粋）

■環境基本計画とは何か

 - ・印西市環境基本計画は、印西市環境基本条例に基づき市長が定めるものであり、印西市環境基本計画を定めるにあたっては、市長は事前に印西市環境審議会の意見を聴かなければならない。
 - ・上位計画である「印西市総合計画」に掲げる印西市の将来都市像を環境面から実現するためのもので、「印西市都市マスタープラン」や「印西市緑の基本計画」等、他の個別計画との整合を図った上で定められている。

■計画の進行管理について

- ・市が毎年度予算化して実施する施策の取り組み実績について点検・評価するものが「環境白書」である。
- ・今年度から来年度にかけての環境審議会においては、毎年度の取り組みの点検・評価（「環境白書」の作成）と第3次印西市環境基本計画の策定前の審議が同時進行で行われることになる。

■第3次印西市環境基本計画の策定の目的・方向性

- ・上位計画「印西市総合計画」や他の個別計画「印西市都市マスタープラン」、「印西地区ごみ処理基本計画」等の整合を図った上で策定する。（市全体が同じ方向を向いていた方がより実現性を高めることにつながると考えられるため）
- ・現行の印西市環境基本計画をベースとするが、過去9年間における市の課環の変化や昨今の国内外の社会情勢・法制度等を鑑みて定める。
- ・具体的には、国の方針に基づき、「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」及び「地域気候変動適応計画」を内包することや、SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を活用することが、現行計画からの変更点である。
- ・また、昨今話題となっている「食品ロス削減対策」、「廃プラスチック削減対策」等も新たに取り入れる。
- ・計画期間は令和4年度からの10年間であり、進捗状況の点検・評価については引き続き「環境白書」として公表を行う。

■第3次印西市環境基本計画策定体制及びスケジュール

- ・環境推進会議を通して市民・事業者の意見等を把握の上で、市において計画の素案を作成し、環境審議会による審議を経て策定するというのが大まかな流れとなる。
- ・令和2年度は、「既存資料調査」、「市民・事業者アンケート調査」、「自然環境調査」など、環境データの収集を中心に行う。
- ・令和3年度は、具体的な施策・指標等の検討やパブリックコメントを実施し、最終的な計画の案について環境審議会の答申を受け策定となる。

—質疑—

(委員) 上位計画である次期印西市総合計画基本構想の将来都市像から「自然」というワードがなくなっているが、それについては事務局としてはどう考えているか。

(事務局) 短いフレーズの中には入っていないが、内容には「自然」や「環境」について十分盛り込んでいるので、そちらで判断していただきたい。

(委員) 説明の中にも出てきた「海洋プラスチック問題」への対策が昨今重要となってきているように感じるが、市としてはどのように考えているか。

(事務局) 所管部署はクリーン推進課となるが、市としても廃プラスチック削減については重要であると考えており、法改正に基いてきちんと対策を講じていくよう

にという指示も出ているところである。

(委員) 最近ゼロカーボンシティの表明をする自治体が増えており、千葉県では我孫子市や浦安市も表明している。印西市も新たな環境基本計画の策定という段階にあり、ぜひゼロカーボンシティを表明していただきたいと考えている。

(事務局) それについては、環境推進会議等で意見を出していただければと思う。

(5) 講演

『自然を活かした豊かな地域づくり：グリーンインフラのすすめ』

講師：国立環境研究所気候変動適応センター 西廣 淳先生

—質疑—

(委員) 印旛沼の水質が全国的に見ても悪いというように聞くが、実際はどうか。

(講師) COD という一つの数値だけ見ると悪いという風になるかもしれないが、湖沼の価値というのは、その持つ風景や生息する生物などあらゆる要素によって成り立つもので、CODはその指標の一つにすぎないため、それだけで印旛沼の価値を評価するのは良くないのではと考える。

(6) 閉会

以上